

K.I.T.虎ノ門大学院 シラバス - 知的創造システム専攻

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先: 虎ノ門事務局[メール or 電話])

※ 授業中の食事は控えてください。また、携帯電話をマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名		区分/コード	単位数	VOD 閲覧	開講期
特許情報特論 Advanced Patent Information		主要科目 X106	2	学内 のみ	1期 (前学期)
担当教員名	Eメールアドレス	連絡方法/オフィスアワー			
松田 成正	-	メールアポイントにて随時			

関連している科目(履修推奨科目)

知的財産マネジメント要論	知的財産政策特論
--------------	----------

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

近年、経済活動のグローバル化の進展や新興国市場の急成長に伴い、企業等を取り巻く環境が大きく変化している。このような環境変化のなかで、特許情報の収集・分析により国内外の動向を把握することは、企業等における研究開発戦略、事業戦略、知財戦略を策定する際に不可欠のものとなっている。

特許情報は、多くの国の特許庁や国際機関において、インターネットを通じて無料で一般に広く提供されている。加えて、高度で多様なユーザーニーズを満たす高付加価値サービスを有料で提供する民間事業者も多数存在している。これら多種多様な特許情報に関する提供サービスを目的に応じて適切に選択し、有効に活用するためには、特許情報の体系的な知識が不可欠である。一方で、中国をはじめとする新興国にかかる特許情報の入手には課題も多く、特許情報の収集・分析にあたっては、これらの現状についても把握しておくことが必要である。

本講義においては、以下の①～⑤のステップにより、特許情報に関する基礎を体系的に学び、基本的なパテントマップ等、目的に応じた加工方法についても学ぶことにより、特許情報を有効に活用できるようになることを目指す。

- ①特許情報に関する基礎の修得。
- ②無料もしくは有料で利用可能な、特許情報データベースについて、蓄積されている内容、検索に利用できるキー、特徴を概観。
- ③受講者が設定した技術分野と検索目的に適合するデータベースを選定し、得られる情報、得られない情報を考察。
- ④最終的には、企業等において、目的に応じ、最も効率的・効果的に特許情報を利用する方法を修得。
- ⑤あわせて、特許情報の利用に必要な知的財産関連法規や国際情勢等についても修得。

到達(修得)目標

世界中の膨大な特許情報から、必要な技術情報や権利情報を取得することが出来る。
取得した情報を、目的に応じてパテントマップ等に加工し、企業戦略等に活用できるような知識を修得する。

受講対象者

経営企画担当者、研究・開発企画担当者、特許部門担当者、技術コンサルタント等
(経営・事業戦略企画、研究・開発にかかる戦略企画、知財戦略企画、今後の技術のトレンドについての判断等の業務を行う者)

履修上の注意事項やアドバイス

- PCを用意すること。授業日程を一部他の曜日時間帯に振り返る必要性が発生した際は、別途調整する。
- ※ 欠席が、**4コマ(90分=1コマ)**を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。
- ※ 本科目は、2コマ連続クラス(180分×8日間、合計16コマ)で構成する。
- ※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域(Y軸)		ヒューマンパワー(Z軸)		思考プロセス(X軸)	
Y 1: 基盤法令・テクノロジー	○	Z 1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y 2: 応用法令・実務・テクノロジー		Z 2: 独創力		X2: 構想	
Y 3: グローバル法令・実務		Z 3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y 4: マネジメント	○	Z 4: プレゼンテーション力	○	X4: 設計・開発	
Y 5: 戦略立案		Z 5: 変革推進力		X5: 変革	
Y 6: 標準化		Z 6: コミュニケーション力		X6: 導入・運用	
-	-	Z 7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	○
-	-	Z 8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	

プラクティカム

イベント/ケース		教育技法	ツール
1	良く知られた特定の製品や興味ある技術を選び、その製品等に使用されている知的財産権を調べる。また、その特許に付与されている特許等の分類を調査する。	企画、グループ討議、調査・分析(問題発見力)	インターネット
2	1で調査・検討した特許等の分類を基に、その分野における特許情報を特許庁の特許情報提供サービスを用いて収集する。収集した特許情報を加工、分析して技術等の動向を見極め経営や研究開発戦略を策定する。	企画、調査・分析、評価(プレゼンテーション力)	インターネット

評価の方法

(総合評価項目と割合)		評価の要点
出席、学習プロセス	30%	本講義の目的は、特許情報を利用することができる知識の修得にある。具体的には、特許情報に関する知識のみならず、検索ツールの利用、データ分析結果の可視化、プレゼンテーション等を含めた知財戦略策定に資する能力を備えることにある。このため、プラクティカムシートの結果に対し最大の評価を行うとともに、そのプレゼンテーションに関しても評価を行う。
プラクティカムシート	50%	
発表	20%	
合計	100%	

テキスト、参考図書 など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください ※		
テキスト (購入が必要)	特になし	
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	特許庁や独立行政法人工業所有権情報・研修館発行の公表資料	
参考 URL		
独立行政法人工業所有権情報・研修館(特許電子図書館の提供) http://www.inpit.go.jp/ipdl/index.html		
独立行政法人工業所有権情報・研修館(特許情報の提供) http://www.inpit.go.jp/info/index.html		
特許庁の公表資料 http://www.jpo.go.jp/index/insatsubutsu.html		

コマ	学習内容	事前準備	担当者	時間
1,2	<イントロダクション> 講義の全体プロセスの説明、プラクティカムの概要、プラクティカムシートの説明 <特許情報(一般)> 特許情報とその有用性に関し論じる。具体例として、企業の知財戦略やグローバル化への対応等の観点から、特許情報をどのように利用するのかを論じる。 イベント 各自が関心のある技術分野を発表する。	関心がある技術分野を検討する(複数でも良い。後日変更可)	松田	180分
	<公的特許データベース(1)> 日本国特許庁の特許情報提供サービス(アクセス無料)にアクセスし、蓄積されている内容、検索に利用できるキー、特徴について論じる。 <特許分類(1)> 特許データベースを検索する上で、必要不可欠である国際的な分類体系(IPC)について論じる。また、日本特許庁の独自分類(FIやFターム)について論じる。 イベント 特許庁の特許情報提供サービスにアクセスし、具体例を用いた演習を行う。	日本国特許庁の特許情報提供サービスにアクセスする。	松田	180分
5,6	<商用特許データベース> 日本における代表的な商用の特許データベースの機能と内容について、さらに、日本企業における目的に応じたデータベースの選定について論じる。 <公的データベース(2)、その他無料データベース> 各公的データベースの機能、内容等で不十分な点は何か、商用データベースは、その不十分な点をカバーすることができるのかについて、さらに、その他の無料データベースについて論じる。 イベント		松田	180分
	<特許分類(2)ープラクティカム1 に向けてー> 各自が選定した技術テーマの特許分類を特定する方法について論じる。 <知的財産権法と特許情報検索> 特許情報検索を行う場合に、必要な関連法規等について論じる事で、特許情報検索と他の技術情報検索との相違点を明確にし、特許情報固有の検索について検討を行う。 イベント 特許庁の特許情報提供サービス等を活用して、各自の選定テーマの分類を特定する。	各自の選定テーマを確定する。	松田	180分
9,10	<プラクティカム1> <パテントマップ・技術動向調査 1> 特許情報を加工してパテントマップ作成・技術動向を調査する手法、意義について論じる。 イベント 各受講者は自分のプラクティカムシートをプレゼンし、他の受講者との間で議論		松田	180分
	<パテントマップ・技術動向調査 2> パテントマップの活用例、パテントマップを用いた知財戦略等について検討する。 <各国の知財サービスと戦略> 各国特許庁が提供するサービスについて論じ、日本国特許庁のワンストップサービスの動向についても言及する。また、途上国の知財戦略に関して、特許情報の観点から論じる。 イベント		松田	180分
13,14	<プラクティカム2> <国際戦略と国際協力> 日本国特許庁(JPO)、米国特許商標庁(USPTO)、欧州特許庁(EPO)、中国知識産権局(SIPO)、韓国知財庁(KIPO)等が行っている特許情報分野での協力や各国の国際戦略について、その背景(企業ニュースや成長戦略)を踏まえながら論じる。 イベント 各受講者は自分のプラクティカムシートをプレゼンし、他の受講者との間で議論		松田	180分
	<総まとめ> <概念検索・特許評価> 特許分類を用いない検索手法である、概念検索について論じる。また、知財評価のための各種手法についても言及する。 ミニイベント		松田	180分

学習内容やスケジュール等、状況に応じて、一部変更・改善が生じる場合もあります。
 講義収録は、特別講師を招く場合を含め、事情によっては収録できない場合もあります。

専任教授 確認記録欄
 確認者氏名: 加藤

« 虎ノ門事務室: 03-5777-2227 / tokyo@kanazawa-it.ac.jp »